

一般社団法人 日本独文学会
JAPANISCHE GESELLSCHAFT FÜR GERMANISTIK E.V.

ニュースレター2024 春号
JGG-INFO-BLATT / FRÜHLING 2024

2024/04/10 現在

まえがき

北陸

2024年1月1日、能登半島地震が起きました。お亡くなりになられた方々に謹んでご冥福をお祈り申し上げます。2日後、日本独文学会を代表しまして、北陸支部長の名執基樹氏ならびに北陸支部選出理事の田邊恵子氏にお見舞いを伝え、被災状況を伺いました。北陸支部会員ならびにご家族、学生の皆さまのご無事、そして被災地全体の復興を心から祈念しております。

支部

当方、日本独文学会の歴史において地方から選出された初めての会長です。西日本支部が1999年にアジア地区ゲルマニスト会議を引き受けた際、当時、私は九州大学文学部の助手でしたが、事務局会計の大役を仰せつかりました。現在は、日本独文学会の他に、日本独文学会西日本支部、北海道ドイツ文学会、日本オーストリア文学会、日本ドイツ学会、かいろすの会、九州大学独文学会の会員でもあります。

会長行脚

そんなこともあり、支部の活性化に関しまして、これまで多くの方々からご意見を賜りました。この場を借りまして御礼を申し上げます。中には「支部の研究発表会を日本独文学会がシェアする仕組みを作ってはどうか」という建設的な提案も複数の方々から頂戴しました。そこで、現状視察も兼ねて思いついたのが、いわゆる会長行脚です。以下、私なりの支部報告をいたします。

徳島

先のご提案をされた方の一人は、中国・四国支部選出理事の黒田晴之氏です。それで黒田氏に私の「思いつき」をお伝えしたところ、すぐにご回答が届きました。当方、2023年11月11日に徳島大学で行われた中国・四国支部学会に参加するだけでなく、黒田氏と一緒にミニ・セッション「ルーマニアという周辺から」を行うことになったのです。松尾博史支部長をはじめ同支部関係者の皆さま、懇親会の招待を含め、ご対応、誠に有難うございました。

札幌

また、2023年12月16日に北海道大学で開催された北海道ドイツ文学会にも参

加しました。35名前後の参加だったでしょうか。猛吹雪の中、北大正門から会場まで向かいましたが、やはり、北大は広い、25分ほどの雪中行軍になったと思います。こちらでは会員として研究発表をただけではなく、その前に行われました総会にも出席、今後の方針について意見交換をいたしました。

遠方から

いずれの支部も、確かに厳しい状況にあります。参加者もそれほど多くありません。これが現状です。もっとも、私にとって印象的だったのは、研究発表会の充実と懇親会の盛況ぶりです。支部を離れても支部会員として残る方々が、中国・四国でも北海道でもおられます。今回は私を含め遠方から参加してご発表をされた会員が複数おられました。「北海道ドイツ文学会オールジャパン」、北海道支部のプログラムにあった言葉です。

ご支援

いずれの支部でも、研究発表会で活発な質疑があり、その勢いが懇親会、二次会でも続きました。支部の集まりだからでしょうか、いつも以上に実りのあるお話ができたと思っています。その際、忘れてはならないのは、ドイツ語教科書協会の方々のご支援です。「私たちにできることでしたらなんでも仰ってください」という力強いお言葉もいただきました。本当に有難うございます。以上の経験を踏まえ、今後のことをしっかりと検討していく所存です。

御礼

最後にもう一つ。学会事務局の平光裕子さんが、2024年3月末日をもちましてご退職されることになりました。長年にわたるご支援に、この場を借りまして心より御礼を申し上げます。なお、2024年1月には鈴木千絵さんが事務局に着任、今後は若林美佐知さんと一緒にお仕事をされることになりました。若林さん、鈴木さん、どうぞ宜しくお願いします。

会長 小黒康正

目 次

まえがき

ご案内

2024 年春季研究発表会について / Frühlingstagung 2024	1
2024 年秋季研究発表会のご案内 / Bekanntmachung der Herbsttagung 2024	2
会費納入について	4
一般社団法人日本独文学会会費規程	5
ドイツ語教育部会総会のお知らせ	7
第 50 回語学ゼミナール開催のお知らせ	8
50. Linguisten-Seminar der JGG	10
DAAD からののお知らせ	12
ゲーテ・インスティトゥート奨学金のお知らせ	15
一般社団法人日本独文学会岩崎奨学金(出版助成)のお知らせ	17
「ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査」の実施について	18

報告

第 21 回日本独文学会・DAAD 賞選考結果	19
日本独文学会 2022 年秋季研究発表会報告	20
第 49 回語学ゼミナール報告	21
日本独文学会研究叢書既刊一覧	26
2023 年度ドイツ語教員養成・研修講座報告	27
2023 年度ドイツ語論文ワークショップ開催報告	29
支部報告	30
ドイツ語教育部会報告	38
ドイツ語学文学振興会より	42
大学院 Germanistik 関係博士論文題目	43

その他

『日本独文学会名簿 (2023 年発行)』正誤表	44
--------------------------	----

あとがき

45

2024 年春季研究発表会について

最新情報は学会 HP 「日本独文学会ホームページ (<https://www.jgg.jp/>)」左メニュー「[研究発表会](#)」にてお知らせする。

Frühlingstagung 2024

Die aktuellen Informationen finden Sie unter [Tagungen](#) im linken Menü auf der JGG-Webseite (<https://www.jgg.jp/>).

2024 年秋季研究発表会のご案内

下記の通り、2024 年秋季研究発表会を開催いたします。

期日：2024 年 10 月 19 日（土）、20 日（日）

会 場：熊本大学 黒髪北地区

〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2 丁目 40 番 1 号

研究発表をご希望の方は「発表申込書 1（申込者情報）」（Excel 形式）をダウンロードし、「発表申込書 2（発表概要）」（Word 形式）と共に、日本独文学会ホームページ（<https://www.jgg.jp/>）左メニュー「[研究発表申込み](#)」にアクセスし、「[研究発表申込フォーム](#)」よりお申込みください。その際、必ず「研究発表申し込み要領（2024 年 1 月 24 日改訂）」をご熟読ください。申し込み審査のガイドラインもそこに記載されています。

申し込み締め切り：2024 年 7 月 1 日（月）

申し込み先：上記発表申し込みフォーム

2024 年 3 月
日本独文学会理事会

Bekanntmachung der Herbsttagung 2024

Die Herbsttagung der JGG findet statt:

am Sa., 19. und So., 20. Oktober 2024
an der Universität Kumamoto, Kurokami-kita-Campus
2-40-1 Kurokami, Chuo-ku, Kumamoto-shi, 860-8555

Wenn Sie sich als Referent*in bewerben möchten, senden Sie uns bitte das ausgefüllte Antragsformular (Exel-Datei) und Ihr Exposé in Form einer selbst verfassten Word-Datei. Um sich anzumelden laden Sie bitte beides unter [Anmeldeformular \(研究発表申込フォーム\)](#) auf der JGG-Webseite hoch.

Detaillierte Informationen sowie alle notwendigen Upload- und Download-Links finden Sie unter [Referatsanträge \(研究発表申込み\)](#) im linken Menü auf der JGG-Webseite (<https://www.jgg.jp/>). Der deutsche Text folgt dem japanischen.

Anmeldefrist: Mo., 1. Juli 2024

Anmeldung unter: siehe oben

März 2024
Vorstand der JGG

会費納入について

会員の皆様におかれましては、すみやかな会費納入にご協力いただきありがとうございます。

事務局では会員お一人お一人の会費ご納入に関して、年間を通じ必要に応じてご連絡を差し上げています。その際にご理解、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

また、以下の点をご確認ください。

【会費割引制度】

前年度末までに 80 歳になられた方、常勤職をお持ちでない方、学生の方は、ご本人からのお申し出によって、年会費の割引を受けられます。会費規程をご確認の上、事務局までお申し出ください。

【口座自動振替によるご納入】

口座自動振替のお申込みは随時受け付けています。まだお申込みでない方は是非ご検討ください。申込書をお持ちでない方は事務局までご連絡ください。お申込みくださった時点でその年度の手続き締切りに間に合わなかった場合は、自動的に次年度開始の扱いとなります。その年の年会費は振込にてご納入くださるようお願い致します。

2024 年度振替日は 7 月 1 日（月）ですので、すでにご登録の方は事前に口座残高をお確かめいただけますと幸いです。また、振替口座等の変更や年会費割引のお申し出は 4 月末までに事務局にご連絡ください。振替日は年に一度のみです。7 月 1 日（月）に振替ができなかった場合は、郵便振込をお願いしています。

【郵便振込によるご納入】

口座自動振替をお申込みいただいてない方には、学会年会費納入のお願いと払込取扱票をお送りします。

以上、よろしくようお願い申し上げます。ご不明の点、ご質問は事務局（TEL./FAX：03-5950-1147，Mail フォーム：<http://www.jgg.jp/mailform/buero/>）までお問い合わせください。

日本独文学会

一般社団法人日本独文学会会費規程

(目的)

第1条 この規程は、定款第7条の規定に基づき、入会金及び会費の納入に関し、必要な細則を定めるものとする。

(入会金)

第2条 会員は入会金として1,000円を納入しなければならない。

(入会金の納期)

第3条 入会金は、この法人から入会承認の通知を受けた日から30日以内に納入しなければならない。

(会費)

第4条 会員は、次の会費(年額)を納入しなければならない。

正会員	10,000円
賛助会員	30,000円(学術交流団体など非営利団体の場合10,000円)

(会費の納期)

第5条 会員は、当該事業年度開始の7月末日までに、会費年額の全額を納付しなければならない。

(会費の減免)

第6条 4月1日現在で常勤職を持たない正会員の当該年度会費は、本人の申告に基づいて8,000円とする。

- 2 4月1日現在で大学・大学院およびこれに準ずる教育・研究機関に在学する正会員の当該年度会費は、本人の申告に基づいて5,000円とする。申告は、6月1日までに学生証ないしはそれに相当する証明書のコピーを郵送もしくはファックスで学会事務局に提出することによって行うものとする。
- 3 4月1日現在で満80歳以上の正会員の年度会費は、本人の申告に基づいて5,000円とする。申告は6月1日までに行うものとする。
- 4 会費の減免は申告が受理された年度から適用し、遡って適用されることはない。
- 5 常勤職を持たない正会員が常勤職に就いた場合は、身分が変わった直後の4月20日までに身分の変更を学会事務局に届け出るものとする。
- 6 大学・大学院およびこれに準ずる教育・研究機関に在学する正会員の身分に変更があった場合は、身分が変わった直後の4月20日までに身分の

変更を学会事務局に届け出るものとする。

(使用目的)

第8条 入会金及び会費は次の各号に定める事項に使用する。

- (1) 本会の運営
- (2) 本会の機関誌等の発行

(細則)

第9条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に必要な事項は、理事会の決議により別に定めることができる。

(改廃)

第10条 この規程の改廃は、総会の決議による。

附 則

この規程は、2019年4月1日から施行する。

ドイツ語教育部会総会のお知らせ

日時：2024年6月8日（土）12時45分～13時15分（予定）

会場：慶應義塾大学日吉キャンパス B会場（DB202 教室）

議題

I 報告事項

- 1) 2023年度活動報告
- 2) その他

II 審議事項

- 1) 2023年度決算報告
- 2) 2024年度予算について
- 3) 監事嘱任について
- 4) その他

III 会員からの意見開陳

第 50 回言語学ゼミナール開催のお知らせ

2024 年 2 月

日本独文学会第 50 回言語学ゼミナールを下記の要領で開催いたします。今回は世界の言語の多様性や普遍性を扱う分野である言語類型論を取り上げます。ゼミナールでは特に言語類型論の分野で Greenberg 以来主要なテーマとなってきた語順や、指示代名詞、副文が扱われ、ドイツ語の言語類型的位置づけという視点も盛り込みつつ、これらの領域の文法化の過程や、認知言語学における用法基盤的立場からの説明に焦点が置かれる予定です。例年どおり参加者による研究発表も歓迎します。みなさまの積極的なご参加を心よりお待ちしております。

※感染症拡大の状況次第で開催要領に変更があり得ます。学会 HP の最新情報にご注意ください。

記

総合テーマ Sprachtypologie in der gebrauchsbasierten Linguistik

招待講師 Holger Diessel 教授（イェーナ大学）

※ご経歴や業績等についてはこちらをご参照ください。

<https://holgerdiessel.uni-jena.de/>

期 間 2024 年 8 月 26 日（月）～ 8 月 29 日（木）の 4 日間

会 場 日本大学理工学部駿河台校舎（予定）
〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台 1-8-14
<https://www.cst.nihon-u.ac.jp/campus/surugadai/>

定 員 40 名

参加費 1 万円（会員）、1 万 2 千円（非会員）

※宿泊は各自で手配していただきます。申し込み後に近隣のホテルをご案内します。

※学生および専任職を持たない会員については、所属機関等から出張費等の支援を受けていないことを条件に、参加費補助（5 千円）と宿泊費補助（1 万円を予定）を行います。加えて、遠方からの参加の場合、旅費の補助も検討します。

※中国・韓国・台湾のゲルマニスト関連団体の方が申し込む際は、略歴および主

50. Linguisten-Seminar der JGG Tokyo, 26. Aug. – 29. Aug. 2024

Das 50. Linguisten-Seminar der Japanischen Gesellschaft für Germanistik wird dieses Jahr in Tokyo im folgenden Rahmen stattfinden. Über eine zahlreiche Teilnahme würden wir uns sehr freuen.

*Coronabedingte Änderungen vorbehalten. Achten Sie auf die aktuellen Informationen auf der JGG-Webseite.

1. Rahmenthema: Sprachtypologie in der gebrauchsbasierten Linguistik

2. Gastdozent:

Prof. Dr. Holger Diessel (Friedrich-Schiller-Universität Jena)
<https://holgerdiessel.uni-jena.de/>

3. Termin: Montag, 26. August bis Donnerstag, 29. August 2024

4. Ort: Nihon University, Surugadai Campus (geplant)

College of Science and Technology

Kanda-Surugadai 1-8-14, Chiyoda-ku, 101-8308 Tokyo

<https://www.cst.nihon-u.ac.jp/campus/surugadai/>

5. Max. Teilnehmerzahl: 40

6. Anmeldung:

Bewerbung per Google Form „LS2024 Anmeldeformular“:

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdsDkzs2Nakuy-0t58ajqSteLrsZhW8bhw93mtKGB4eEkAAPA/viewform?usp=sf_link



*Interessenten ohne JGG-Mitgliedschaft werden gebeten, neben der Anmeldung ihren

akademischen Werdegang sowie die Liste ihrer wichtigsten Publikationen in PDF-Format nachzureichen. Bei Nicht-Mitgliedschaft zu den mit der JGG in freundschaftlicher Verbindung stehenden germanistischen Verbänden in asiatischen Nachbarländern ist zudem eine Empfehlung durch ein JGG-Mitglied in PDF-Format erforderlich. Bei Fragen wenden Sie sich an den Organisationsausschuss per unten stehende E-Mail-Adresse.

7. Teilnahmegebühr:*

10.000 Yen (bei JGG-Mitgliedschaft oder Mitgliedschaft zu den mit der JGG in freundlicher Verbindung stehenden germanistischen Verbänden in asiatischen Ländern) bzw. 12.000 Yen (ohne JGG-Mitgliedschaft) sind a.O. zu zahlen.

*Wir bitten Sie, das Hotel selbst zu buchen. Informationen zu Hotels in der Umgebung werden wir Ihnen nach der Anmeldung zusenden. Für Studierende sowie Teilnehmende ohne feste Anstellung sind unter Umständen Gebührenermäßigungen, Übernachtungs- und Reisekostenzuschüsse möglich.

8. Anmeldeschluss: Sonntag, 9. Juni 2024

Die Auswahl der Teilnehmenden bleibt dem JGG-Vorstand vorbehalten.

Vortragsbeiträge zu allgemein linguistischen Themen

Beim Linguisten-Seminar besteht für die Teilnehmer*innen auch die Möglichkeit, ein etwa 30-minütiges Referat zu allgemein linguistischen Themen zu halten. Für die Anmeldung eines Referats (ebenfalls bis zum 9. Juni 2024) ist die Angabe des geplanten Titels sowie die Zusendung eines Abstracts (ca. 250 Wörter) erforderlich. Die Auswahl der Beiträge bleibt dem Organisationsausschuss vorbehalten.

Organisationsausschuss des 50. Linguisten-Seminars

Hiroyuki Miyashita (Leitung)

E-Mail: linguistenseminar [_AT_] googlegroups.com

DAAD からのお知らせ

1. 【毎月開催】YouTube ライブ・ドイツ留学トーク

DAAD 東京事務所は毎月、現在または過去にドイツに留学された方をゲストに迎えた YouTube ライブを行っています。視聴者の皆様のご質問に答える時間もございますので、留学経験者に聞いてみたいことや、DAAD 奨学金についての疑問もどうぞお寄せください。予約・登録は不要です。YouTube チャンネル「DAAD Japan」の「ライブ」から、過去回のアーカイブもご覧いただけます。直近では三月に、ゲーテ・インスティトゥート東京に「ドイツ留学のためのドイツ語学習・検定試験」についてお話しいただきました。その他、DAAD 奨学金合格者の経験談等を聞くことも出来ますので、ぜひご覧ください。ドイツ留学に関心がある方へのご周知もどうぞよろしくお願いいたします。

YouTube Live : <https://www.daad.jp/ja/events/>

2. 【6月15日（土）、16日（日）開催】欧州留学フェア (EHEF)

欧州連合加盟国の大学関係者を日本に招待して開催される欧州留学フェアは、今年で12回目を迎えました。約70機関が東京（15日、法政大学）と京都（16日、同志社大学）でブースを展開し、参加者は各機関から直接留学相談を受けることが出来ます。ゲーテ・インスティトゥートとDAADの他、ドイツからは9機関の代表者が来日します。6月10～12日にはテーマに応じたウェビナーも開催予定です。事前に各参加機関の資料をダウンロードすることもできますので、どうぞ以下のサイトをご覧ください（随時アップデート）。

<https://ehf-japan.org/>

3. ドイツ留学相談随時受付中

DAAD 東京事務所はドイツ留学に関する相談を随時メールで受け付けています。Zoom によるオンラインでの相談も可能です。ドイツ留学相談をご希望の方は、問い合わせフォームから具体的な質問内容をお送り下さい。オンライン相談をご希望の場合は「オンライン留学相談希望」と記載し、ご希望の日時（一人当たり約20分、事務所開室日14～17時まで）をあらかじめお知らせください。

留学相談お問い合わせフォーム : www.daad.jp/ja/about-us/contact/

DAAD 奨学金についてのお問い合わせ : scholarships@daadjp.com

Neuigkeiten vom DAAD

1. YouTube Live - Jeden Monat ein neuer Livestream!

Die DAAD-Außenstelle Tokyo lädt monatlich Gastredner*innen, die in Deutschland studieren oder studiert haben, ein und sie sprechen über verschiedene Themen aus ihrem Leben in Deutschland. Gerne beantworten wir direkt Ihre Fragen sowohl an uns als auch an Gäste. Anmeldung ist nicht erforderlich. Unter „Live“ in unserem YouTube Kanal „DAAD Japan“ können Sie auch Archive sehen. Das letzte Thema im März war „Deutschlernen zum Studieren in Deutschland“ und wir empfangen das Goethe-Institut Tokyo als Gast. Außerdem können Sie von erfolgreichen Bewerbern für die verschiedenen DAAD-Stipendien hören. Über das Weiterleiten an Ihre Schüler*innen würden wir uns auch sehr freuen.

YouTube Live : <https://www.daad.jp/ja/events/>

2. European Higher Education Fair (EHEF): 15.-16. Juni

Die European Higher Education Fair (EHEF), die bereits zum 12. Mal stattfindet, lädt Vertreter der Hochschulen in EU nach Japan ein und wird auch in diesem Jahr wieder im großen Rahmen abgehalten.

Rund 70 Institutionen werden in Tokyo (15. Januar, Hosei Universität) und Kyoto (16. Januar, Doshisha Universität) mit Ständen vertreten, an denen sich die Teilnehmer direkt über ein Studium in Europa beraten lassen können. Neben dem Goethe-Institut und DAAD kommen neun Instituten aus Deutschland nach Japan. Vor der Veranstaltung, zwischen dem 10. und 12. Juni, werden auch themenbezogene Webinare angeboten. Sie können Materialien jeder teilnehmenden Hochschule vorab herunterladen und weiter Details finden unter: <https://ehf-japan.org/>

3. Beratung zum Studium in Deutschland

Die DAAD-Außenstelle Tokyo steht jederzeit für Beratungen zum Studium in Deutschland per E-Mail zur Verfügung. Eine Online-Beratung über Zoom ist auch möglich. Wenn Sie sich eine Beratung zum Studium in Deutschland wünschen, senden Sie uns bitte über das Kontaktformular Ihre konkreten Fragen. Wenn Sie eine Online-Beratung in Anspruch nehmen möchten, geben Sie das bitte an und teilen Sie uns vorab Ihre Wunschtermine mit (ca. 20 Minuten pro Person zwischen 14:00 - 17:00 Uhr an unseren Öffnungstagen).

Kontaktformular: www.daad.jp/ja/about-us/contact/

Bei Fragen zu den Stipendienprogrammen wenden Sie sich bitte per E-Mail an scholarships@daadjp.com.

ゲーテ・インスティトゥート奨学金のお知らせ



ゲーテ・インスティトゥート（ドイツ文化センター）は、大学・高等専門学校・高等学校のドイツ語教育担当教員を対象に、ドイツ語教員向け奨学金プログラムを実施しています。**2025年度募集予定の**プログラムは以下の通りです。

1. ドイツ語教員のためのランデスクンデ・教授法ゼミナール（2週間）
2. ドイツ語教員のための語学コース（2週間）
3. ドイツ語教員養成者のためのゼミナール

- * オンラインまたは現地での実施、またはその組み合わせ
- * 研修期間中の研修費用がゲーテ・インスティトゥートより支給されます。ドイツで実施の場合はそれに加えて宿泊費全額、ならびに旅費の補助金が支給されます。

< プログラム応募資格 >

大学または高等学校、高等専門学校でドイツ語を教えている、またはドイツ語教員養成に携わっている方のうち、次の条件を満たす方

- 過去数年間にドイツ政府の奨学金を受けていない
- これまでドイツ語教育とその促進に貢献しており、研修終了後少なくとも数年間、ドイツ語教育に携る予定である
- 研修で得た知識を、今後のドイツ語教育に役立つようフィードバックする意志がある
- 研修の全プログラムに参加できる
- 研修の前提となる必要なドイツ語力を備えている

詳細は、2024年9月以降、ホームページの申込要領をご確認の上、

2024年10月10日までにメールの添付でお送りください。

問い合わせ/申込：ゲーテ・インスティトゥート東京
ドイツ語教員研修支援プログラム係

TEL:03-3584-3201 E-Mail: stipendien-tokyo@goethe.de

DLL: Das Fort- und Weiterbildungsprogramm für Deutschlehrkräfte am Goethe-Institut Tokyo



Mit der Fort- und Weiterbildungsreihe **DLL – Deutsch Lehren Lernen** des Goethe-Instituts lernen Sie im gemeinsamen Austausch mit anderen Deutschlehrenden, wie guter Unterricht gelingen kann – anschaulich und praxisorientiert! Mit aktuellen fachdidaktischen Inhalten erweitern Sie Ihre eigenen Unterrichtskompetenzen und können sich als professionelle DaF-Lehrkraft qualifizieren. Ideen und Ansätze aus der Fortbildung können Sie dabei direkt in der Praxis umsetzen.

Das unterrichtsnahe Programm richtet sich an alle Interessierten, die sich als Lehrende des Faches Deutsch als Fremdsprache fort- oder weiterbilden möchten. Eine Teilnahme ist für DaF-Lehrende mit formaler Ausbildung oder ohne formale Ausbildung möglich. Auch ohne ein Germanistik- oder DaF-Studium absolviert zu haben, können Sie ihre Kompetenzen mit Einheiten aus der Reihe DLL ausbauen. Voraussetzung für eine erfolgreiche Teilnahme sind Sprachkenntnisse auf dem Niveau B2 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen.

Das Goethe-Institut Tokyo bietet die DLL-Einheiten 1-6 in Form eines regionalen DLL-Zyklus regelmäßig an. Besuchen Sie unsere Website und erfahren Sie mehr über das Fort- und Weiterbildungsprogramm DLL – Deutsch Lehren Lernen.

[Deutsch Lehren , Lernen - Goethe-Institut Japan](#)

一般社団法人日本独文学会岩崎奨学金（出版助成）のお知らせ

2020年度に岩崎奨学金は、若手研究者のための出版助成に改定されました。2023年度は、申請がありませんでした。

なお、岩崎奨学金（出版助成）の概要は、下記のとおりです。

【奨学金の趣旨】

日本独文学会は、故岩崎英二郎先生のご遺族からいただいた寄付金で「日本独文学会岩崎奨学金」を創設し、若手研究者の育成のために国際学会の発表に対しての奨学金を支給してきましたが、必要とされている援助を行うという観点から、この度より若手研究者の研究成果公開のための奨学金制度へと改定することになりました。

【奨学金の概要】

1. 博士論文の出版に際して、テニユア職を持たない会員に対して、30万円を上限に出版費用の助成を行う。
2. 奨学金の支給は年度総額の上限を設定する（2020年度については60万円）。また、同一会員への支給は1回のみとする。
3. 募集は年度毎に行い、日本独文学会ホームページその他の手段で会員に広く公示する。
4. 奨学金は2020年4月より募集を開始する。
5. 奨学金の返済の義務はない。ただし、支給後に、申請対象の研究書の出版を中止した場合、受け取った奨学金を返還するものとする。
6. 他の出版助成を受けることは可能であるが、本奨学金と合わせて出版費用を超えないこと。
7. 奨学金を受けようとする者は、決められた書式の申請書類を日本独文学会事務局に提出する。
8. 審査は日本独文学会常任理事会内に設けた審査委員会が行う。審査委員会は、外部の専門家に審査を依頼することができる。審査の結果適当と認めた場合、奨学金を支給する。
9. 奨学金の原資を使い切った時点でこの事業を終了する。また、事情により、予告なしにこの事業を終了することもある。

「ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査」の実施について

日本独文学会では「ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査」を、2024年5月から6月にかけて実施いたします。いずれもオンラインフォーム上で回答していただく予定です。

【調査の概要】

● 教育機関対象の調査

対象：ドイツ語授業を行っている全国の教育機関（全数調査）

調査項目：専任教員の人数，ドイツ語教員の人数，在学者数，外国語学習のウエイト，開講されている外国語科目，ドイツ語科目について，授業以外のドイツ語学習の機会，ドイツ語教員の研修制度，など。

● 教員対象の調査

対象：大学・高等専門学校・高等学校のドイツ語教員（標本調査）

調査項目：所属部署，勤務形態，専門分野，ドイツ語教育歴，ドイツ語圏滞在歴，調査対象クラスの種類，人数，学系，レベル，重点項目，教材，ドイツ語使用状況，授業形態，教室環境，やりがいを感じる要素，など。

● 学習者対象の調査

対象：大学・高等専門学校・高等学校のドイツ語学習者（標本調査）

調査項目：学系，既習言語，ドイツ語資格・検定試験，ドイツ語圏滞在歴，ドイツ語圏の社会・文化への関心，学ぶ理由，学習目標，学ぶ意義，授業に望むもの，学習への興味，履修後の学習継続への意欲，など。

【結果の公表】

2025年春までに日本語版，ドイツ語版の報告書を日本独文学会ウェブサイト上で公開するとともに，2025年の春季研究発表会において発表する予定です。

教育機関対象の調査につきましては，ドイツ語授業を行っているすべての教育機関に協力をお願いする予定です。ドイツ語教育・学習者の現状を把握するうえで重要な調査となりますので，何卒ご協力のほど，よろしく願いいたします。

（調査担当理事・委員長：太田達也）

第 21 回日本独文学会・DAAD 賞選考結果

第 21 回日本独文学会・DAAD 賞が下記のように決定しましたので、お知らせいたします。

日本語研究書部門：

二藤拓人：『断片・断章を書く ― フリードリヒ・シュレーゲルの文献学』（法政大学出版社，2022 年）

日本語論文部門：

犬飼彩乃：「クレメンス・J・ゼッツ 『ケーフェイと文学』 からみるポスト真実時代の第四の壁」(Neue Beiträge zur Germanistik, Band 20/Heft 2; 『ドイツ文学』 164 号)

ドイツ語研究書部門：

Megumi SATO : Sprachvariation und Sprachwandel im 18. und 19. Jahrhundert. Untersuchungen zur Kasusrektion der Präpositionen wegen, statt, während und trotz (Heidelberg: Universitätsverlag WINTER 2022)

ドイツ語論文部門：

Mototsugu KATSURA : Die Heimat eines Heimatlosen. Autobiografisches Erzählen bei Milo Dor (Neue Beiträge zur Germanistik, Band 20/Heft 1; 『ドイツ文学』 163 号)

次の方々に選考委員をお願いしました。（敬称略）

日本語部門 委員長：高橋輝暁

委員：稲葉瑛志，宍戸節太郎，濱中春，眞鍋正紀（DAAD 推薦）

ドイツ語部門 委員長：宮田眞治

委員：黒田享，藤井明彦，Mechthild Duppel-Takayama（DAAD 推薦），Leopold Schlöndorff

日本独文学会 2022 年秋季研究発表会報告

2023 年秋季研究発表会は、10 月 14 日および 15 日に京都府立大学下鴨キャンパスにて対面で開催された。研究発表会の内訳はシンポジウム 4 本、口頭発表 15 本、ポスター発表 1 本、ブース発表 2 本であった。また、朝日出版社・郁文堂・三修社・同学社・白水社・ひつじ書房各書店によるブースが設けられた。1 日目のプログラム終了後の 18：30～20：30 には懇親会が開催された。

第 49 回語学ゼミナール報告

2023 年の語学ゼミナールも、前年度に引き続き、対面で開催する運びとなった。今回は総合テーマに Morphologischer Wandel im Deutschen: Entstehung und Funktion morphologischer (Ir-)Regularität を掲げ、マインツ大学の Damaris Nübling 教授をお招きし、2023 年 8 月 28 日 (月) ~ 8 月 31 日 (木) の 4 日間の日程で行われた。場所に関しては、これまで関西でゼミナールを開催する際に使用していた施設 (コープイン京都) が、コロナ禍の影響もあり閉業したことを受けて、今回は従来の合宿形式をとりやめ、近畿大学東大阪キャンパスにて開催することとなった。また、アジアゲストとしては、台湾の Holger Steidele 准教授 (Tamkang University) にご参加いただくことができた。ゼミナールの参加者および期間中のプログラムは以下のとおりである：

招待講師： Prof. Dr. Damaris Nübling (Johannes Gutenberg-Universität Mainz)

アジアゲスト： Prof. Dr. Holger Steidele (Tamkang University)

一般参加者 (姓のアルファベット順)：

有路真奈 (東北大学・大学院生), *大喜祐太 (近畿大学), 段上佳代 (サエル学院), 出島恒太郎 (学習院大学・大学院生), Thomas Fritz (Universität Passau), 藤縄康弘 (東京外国語大学), 池田裕行 (東京外国語大学・大学院生), 井坂ゆかり (東京外国語大学), 伊藤克将 (大阪公立大学), 小林大志 (東北大学), *薦田奈美 (同志社大学), **宮下博幸 (関西学院大学), 森芳樹 (東京大学), 室井禎之 (早稲田大学), 中西志門 (京都大学・大学院生), 成田節 (中央大学), 仁科陽江 (広島大学), *信國萌 (大阪公立大学), 沼畑向穂 (東京外国語大学・大学院生), *小川敦 (大阪大学), 岡本順治 (学習院大学), Markus Rude (筑波大学), Maria Gabriela Schmidt (日本大学), 末松淑美 (国立音楽大学), 高橋眞樹 (慶應義塾大学・大学院生), *高橋美穂 (三重大学), 高畑明里 (東京大学・大学院生), 田中愼 (慶應義塾大学), 辻奈央 (京都大学・大学院生), 筒井友弥 (京都外国語大学), 渡辺学 (明治大学), 横田詩織 (慶應義塾大学・大学院生), 米村茉莉 (慶應義塾大学・大学院生)

**実行委員長, *実行委員

プログラム：

8 月 28 日 15:00-17:30 開会, Nübling 教授講演 I
8 月 29 日 9:30-12:00 Nübling 教授講演 II

	13:45-17:00	一般研究発表 I
8 月 30 日	9:30-12:00	Nübling 教授講演 III
	13:45-17:00	一般研究発表 II
	18:00-20:00	懇親会
8 月 31 日	9:30-11:30	ワークショップ
	13:30-15:00	Nübling 教授の講演に関するディスカッション

参加者 35 名のうち、10 名が大学院生であった。ゼミナール開催にあたっては、今回も DAAD に多大なご支援を賜った。ここに記して謝意を示したい。

次に語学ゼミナールでの招待講師の講演内容について報告する。Nübling 教授の第 1 講演は、Prinzipien des morphologischen Wandels と題され、初日の午後に行われた。講演は大きく 3 つの部分、すなわち das Verb – das Substantiv – das Fazit から構成され、ゼミナールでの 3 つの基調講演の導入としての性質を持つ。講演ではまず、形態的諸現象の通時的变化において機能する重要な要素として、言語変化研究の第一人者である Bybee による Relevanz の理論が紹介される。これは、形態素などの意味を有するある言語単位が他の言語単位の持つ意味に対して直接に影響を与えたり、修飾したりする場合に、前者が後者にとって relevant „有意味“であり、そのような関係にある 2 つの意味情報は近接して現れることが予測されるというものである。この Relevanz の概念をドイツ語の動詞の屈折カテゴリーに適用すると、時制 > 法 > 数 > 人称の順で relevant であり、これと呼応してそのカテゴリーを担う形態素が語幹により近い位置で表現される。例えば、現代ドイツ語の動詞群に目を向けると、もっとも relevant な時制については、machen – machte のような規則動詞では過去の形態素が語幹の直後に現れ、laufen – lief, singen – sang のようなアプラウトを伴う不規則動詞においては、語幹に融合する形で表現され、異形態が豊富に観察される。この背後に見受けられるのが、機能(Funktion)から形式(Form)へという言語変化で働く作用とされる。すなわち、relevant であるという機能は高い使用頻度へと繋がり、ひいては形式の変化をもたらす。ドイツ語史に目を向けると、動詞の形態に関わる言語変化は時制を際立たせる方向で作用し、異形態が増大したとされる。さらに、Relevanz の概念は名詞にも適用される。名詞にとって relevant なカテゴリーは数であり、ドイツ語史上、名詞の形態は数を際立たせる、すなわち複数形を有標なものとしてマークする方向で変化を遂げたとされる。数は概念に影響を与えるという点で relevant であり、今日においても例えば複数形でのウムラウトは—地理的には南部を中心に—なお生産的である。

二日目午前に行われた第 2 講演の題目は、Der verbale Ablaut lebt: Zur Genese und

Funktion einer 8. Ablautreihe であり、動詞の形態に関わる通時的変化が中心に取り上げられた。講演ではまず、ゲルマン語・ドイツ語史におけるアプラウト体系がどのように展開していったのか、本講演で重要となる個別テーマとともに概観されたのち、古高ドイツ語における動詞のアプラウト体系が示された。古高ドイツ語では、インド・ゲルマン語から引き継がれた 1-5 のアプラウト列(Ablautsreihe)—例えば第 1 列の動詞としては *rīten – reit (Prät.Sg.), riten (Prät.Pl.) – geriten* が挙げられる—が存在しつつ、*graben – gruop, gruoben – gegraben* のようなゲルマン語で新たに出現した第 6 列、*slâfen – slief, sliefen – geslâfen* のようにかつて語頭音節反復動詞であった第 7 列が認められた。ここで特筆すべきは、上掲の例でも示されるとおり、古高ドイツ語では不定詞・現在形、過去形・単数、過去形・複数、過去分詞という 4 つのアプラウト段階(Ablautstufe)があったことである。しかし、時代を下り初期新高ドイツ語(1350-1650)の頃になると、古高ドイツ語で存在した過去形における単数と複数の対立がなくなり、3 つのアプラウト段階に減少した。新高ドイツ語におけるアプラウトのパターンは、*reiten – ritt – geritten* のような ABB 型、*singen – sang – gesungen* のような ABC 型、*geben – gab – gegeben* のような ABA 型に分けられるが、そのうちもっとも数が多いのが過去形と過去分詞の語幹母音が共通している ABB 型とされる。ドイツ語では過去形と完了形が広範囲で交替可能であるために、この ABB 型が最適であったとされる。現代ドイツ語の強変化動詞(不規則動詞)もその半数が ABB 型であるが、これらはタイプ頻度が高いものの、トークン頻度はそれほど高くないとされる。トークン頻度がもっとも高いのは、数としては少ない ABA 型とされる。タイプにしてもトークンにしても、使用頻度の高さは強変化動詞が弱変化動詞(規則動詞)のグループへと移行するのを妨げる働きがある。頻度と関連した古高ドイツ語から初期新高ドイツ語にかけて生じた変化として、強変化動詞から弱変化動詞への移行が挙げられる。古高ドイツ語では 500 あった強変化動詞が、新高ドイツ語では 160 に減少したとされている。例えば *gebären, backen, melken* などの動詞はその使用頻度(トークン頻度)が低下していったことから、弱変化動詞のクラスに移行したとされる。続いて紹介されたのが、近年新しく生じたとされる第 8 のアプラウト列である。具体的には、*schwimmen* や *spinnen* の過去形のケースで、従来の *schwamm* や *spann* の代わりに、過去分詞の語幹母音と共通した *schwommm* や *sponn* というかたちが観察される現象を指す。この第 8 列は初期新高ドイツ語の頃から発展してきたとされており、今日、少なくとも 23 の動詞がこのグループに属するとされる。これらの動詞は使用頻度の低下が見られるものの、弱変化動詞への移行はせず、単純なアプラウト型がいわば「選択」され、強変化動詞にとどまっているといえる。

最後に、三日目午前の第 3 講演は、Tier-Mensch-Unterscheidungen in der Grammatik:

Belebtheitseffekte in der Nominalmorphologie と題され、これまで研究がほとんど進んでいない、ドイツ語における動物とヒトに関わる語彙と文法現象が通時的観点・共時的観点から取り上げられた。現代ドイツ語では、例えば *essen vs. fressen, trinken vs. saufen, Essen vs. Futter* のように、ヒトに対して用いられる語彙と動物に対して用いられる語彙の区別がある。文献コーパスによる調査結果によると、古高ドイツ語および中高ドイツ語では今日において見られるようなヒト vs. 動物の語彙的区別はなかったという。代わりに存在したのがアスペクトの区別であり、かつては *fressen* が完了相を、*essen* が不完了相を示していたとされる。調査によると、ヒトに関わる語彙が動物に関わる語彙から区別されはじめたのは、1800年頃からとされる。ヒトと動物が区別されるようになったことと並行して見られるのが、有生性(Belebtheit)と名詞の性に関わる形態・文法上の変化である。そこで顕著な例として挙げられたのが男性弱変化名詞である。通時的には、男性弱変化名詞はかつて有生性とは結びついていなかったとされる。中高ドイツ語においては *mensche (Mensch), affe (Affe), brunne (Brunnen), haufe (Haufen), shade (Schaden)* などが男性弱変化名詞に属していた。しかし、初期新高ドイツ語の段階になると、男性弱変化名詞が有生性と結びつくようになり、このクラスがヒトや高等な哺乳類を表す名詞に限定されていく一方で、そのほかの動物—例えば爬虫類や両生類、魚類など—を表す名詞が女性名詞に移り変わる(例えば *die Schlange*)、具体物・抽象物などの無生物名詞が強変化型になる(例えば *der Brunnen*) といった変化が起きた。またそのほか、ヒトと動物の区別に関わる形態の例として接辞-inによる女性形への転化が取り上げられた。Nübling 教授の最新の研究(Nübling 2022)によると、今日のドイツ語では-inによる転化はヒト(例えば *Köchin, Ärztin, Chefin*) に対してのみ用いられる傾向が認められるという。動物に対する *Häsin, Hündin, Löwin* のようなかたちはその生産性を失いつつあり、かつて存在した *arin (Adlerweibchen), wisentin (Wisentweibchen)* といった語は消滅したとされる。さらに現代ドイツ語で観察される興味深い現象として、*tierlich* のような-lichを伴う形容詞の例が紹介された。通時的には、-lichによる形容詞化は生産性を失い、副詞を派生する機能に集約していった。他方、-ischが外来語や動詞の形容詞化を担いその生産性を増すようになり、また、例えば *äffisch, viehisch, abergläubisch* のようにネガティブなイメージを持つ語に対しても適用されていくようになった。その結果として、-ischは意味の悪化という副次的な機能を持つようになった。動物に関する *tierisch* がネガティブなイメージを持つことから、その代わりに使用が増えつつあるのが *tierlich* という形態であり、動物がヒトらしい振る舞いを見せるときやヒトのいわばパートナーとして扱われる文脈などで用いられるとされる。これは上述の *essen vs. fressen* とは逆方向の、ヒトと動物との言語的区別を解消する現象

であるといえる。以上のように、ドイツ語におけるヒトと動物の区別は語彙のみならず、文法においても観察されることから、今後その方向での研究が行われる必要があるとして、本講演は締めくくられた。

以上の3つの講演を通じて、Nübling 教授には機能主義的立場から、(不)規則性をキーワードに屈折や語形態といった形態的諸現象の通時的変化を具体例に基づきお示しいただき、また、関連して共時的に観察される興味深い言語事実を詳細にご教示いただいた。参加者にとってはドイツ語の歴史的変化に対する理解を深めるとともに、最新の研究成果に触れる機会となった。Nübling 教授は講演に先立ち、質問があれば遠慮なく声を上げるようおっしゃり、実際に講演中に参加者から寄せられる質問に快くお答えくださり、また、講演後の質疑応答も活発に行われた。

ゼミナールの2～3日目には、アジアゲストの Steidle 准教授の講演ならびに一般参加者による計12本の発表が行われた。この個別発表の数の多さは特筆に値する。また、ここでも質疑応答が活発に行われ、Nübling 教授からも有益なコメントやアドバイスが発表者、特に若手発表者に対してなされた。ゼミナール3日目の午前には Nübling 教授による3つの講演内容を取り上げるワークショップが日本語で行われた。ワークショップでは最終的に大学院生を中心に講演内容に関する疑問点や質問がまとめあげられ、午後にふたたび Nübling 教授を交えて、ディスカッションが行われた。全体として、非常に有意義な学術的協働の場となった。

今回ははじめての合宿形式ではないゼミナールとなったが、これまでの語学ゼミらしい打ち解けた雰囲気を残しつつ、成功裡に終了することができた。招待講師の Nübling 教授をはじめ、DAAD、参加者各位、実行委員各位、担当理事、ならびに日頃より語学ゼミナールの活動を支援してくださっているすべての学会員のみなさまに、この場をお借りして改めて感謝申し上げたい。

(文責：高橋美穂)

日本独文学会研究叢書新刊のご案内

153号 : Bild, Text, Textur bei Paul Klee und Robert Walser. Versuch einer
intermedialen Lektüre

[絵画・テキスト・テクスチャー—パウル・クレーとローベルト・ヴァ
ルザーをメディア横断的に読む]

編集者: Franz Hintereder-Emde

執筆者: Franz Hintereder-Emde, Megumi Wakabayashi, Fuminari Niimoto, Reto Sorg,
Marie Kakinuma

(2023年10月14日発行)

2023 年度ドイツ語教員養成・研修講座報告

1. 本講座の運営について

ドイツ語教育部会，東京ドイツ文化センターとの共催で開催している「ドイツ語教員養成・研修講座」は，現在 Zoom による全面オンライン開催となり，全国およびドイツからの参加も可能となっている。受講者は，ワークショップへの参加に加え，各モジュールのテーマについてレポートを作成し提出することが求められる。また，参加者の省察や議論を増やしたカリキュラムを導入し，専用のプラットフォームである Moodle 上では，受講者同士，また受講者と講師の間でドイツ語教育をめぐるディスカッションが展開され，ドイツ語教育について共に考え，学び合うコミュニティが形成される場となっている。

2. 2023 年秋開講のコースについて

2023 年秋開講のコースは，前期が 2023 年 10 月から 2024 年 7 月までの 8 回のワークショップで 7 モジュール，後期が 2024 年 10 月から 2025 年 9 月までの 8 回のワークショップで 4 モジュールならびに *Deutsch Lehren Lernen 4*（以下 DLL）の課題，計 11 のモジュールからなる。前期コースには 18 名の受講者が参加し，2024 年 3 月の時点で第 4 回ワークショップまで終了した。今期は特に大学院生やまだ教壇に立ったことがないという若い世代の参加者が多く，ドイツからオンラインで参加している人もいる。

前期コースのワークショップ開催日，モジュールのテーマ並びに担当講師は以下のとおりである（一部未定）。

前期コース(2023年10月—2024年7月)

ワーク シヨッ プ	日付	ワークショップとモジュールのテーマ	
		前半	後半
1	10月7日	導入：コースへの期待； 自身の体験の振り返り 太田達也，草本晶	M1: 学習観と教授法の変遷； 教科書分析 境一三，草本晶
2	11月4日	M1 のレポートの評価と討 論	M2: 授業計画，授業目標，シ ラバス 太田達也，野村幸宏
3	12月16日	M2 のレポートの評価と討 論	M3: 受容的能力(聴く・読む) 植栗裕子，野村幸宏
4	1月27日	M3 のレポートの評価と討 論	M4: 産出的能力(話す・書く) とフィードバック 太田達也，草本晶
5	4月20日	M4 のレポートの評価と討 論	M5: 教師に求められる能力： CEFR にみる教育理念 境一三，太田達也
6	5月	M5 のレポートの評価と討 論	M6: Lernendenzentrierung (学 習者中心) Goethe-Institut
7	6月	M6 のレポートの評価と討 論	M7: ドイツ語授業の参観 森田昌美，池谷尚美
8	7月27日	M7 のレポートの評価と討 論	講座の総括 太田達也

2023 年度ドイツ語論文執筆ワークショップ報告

2023 年度ドイツ語論文執筆ワークショップは、2024 年 3 月 28 日（木）と 3 月 29 日（金）の 2 日間の日程で実施する予定であったが、講師の都合により、2024 年度に延期して行うこととなった。

支部報告

北海道支部

○2023年12月16日（土）に第91回研究発表会が北海道大学大学院メディア・観光学院研究棟にて開催され、以下の研究発表が行われた。

1. 室井禎之（早稲田大学）：
コミュニケーションの「言語哲学」的記述
2. 田中愼（慶應義塾大学）：
言語システムの「言語哲学」的記述
3. 鈴木将史（小樽商科大学）：
G.ハウプトマンのゲーテ化について
4. 小黒康正（九州大学）：
ネオ・ヨアキム主義における東西交点としての「第三の国」
—危機の年1923年をめぐって

参加人数：約30名

会員数：50名

東北支部

○2023年11月25日（土）に山形大学小白川キャンパスにて第65回研究発表会および総会が行われ、活発な議論がなされた。発表内容は下記の通り。

- ・有路真奈「日本語との比較対照を通して見た herum- を前綴りとする分離動詞の意味」
- ・清水翔太「書簡体小説『若きウエルテルの悩み』—報告の手紙と行為遂行的手紙—」
- ・佐藤研一「悲劇『エミーリア・ガロッティ』—宮廷作法と激情の交差—」

○次回研究発表会：2024年秋季に宮城地区開催予定（詳細調整中）

北陸支部

○2023 年度研究発表会が以下のとおり実施された。

日時：2023 年 11 月 11 日（土） 午後 1 時 30 分～午後 5 時 05 分

会場：金沢大学サテライト・プラザ 2 階 講義室

- 1) 開会の挨拶 日本独文学会北陸支部長 名執基樹
- 2) 研究発表
 1. ドイツの文化と社会を中心とした比較文化学の授業について
——SDGs を考慮した異文化理解と授業実践事例——
金城ハウプトマン朱美
 2. Hexen-Erbe und -Tourismus im Harz
Timo Thelen
 3. 真珠の削除
——ベンヤミン「ルソー島」における〈回想方法〉の生成
田邊恵子
 4. ピア・サポート活動としての「地域の母」事業
——デュッセルドルフ市における予備調査をもとに——
志村恵
 5. カール・ファレンティンの相方リースル・カールシュタットについて
宮内伸子

関東支部

○2023 年 12 月 10 日（日）に、早稲田大学早稲田キャンパスにおいて、第 14 回関東支部研究発表会を開催した。3 件の研究発表がなされ、活発な議論が交わされた。発表者と表題は次の通り。

木戸繭子：トーマス・マンの最初の短編作品「幻想」における身体表象

内田賢太郎：ベルリンのユンガー 大都市体験と立体鏡的知覚をめぐって

鈴木佑紀乃：アルフレート・デーブリー『ベルリン・アレクサンダー広場』における発話行為について

東海支部

○支部会員数 108 名 (2023 年 12 月 9 日現在)

○機関誌

2023 年 10 月、『ドイツ文学研究』第 55 号が刊行された。

論文

1. 中川拓哉：運動のスペクタクル—「アトラクションの映画」としてのドイツ山岳映画分析
2. 大塚直：民衆劇『登山鉄道』における社会問題の描かれ方 —戯曲史・社会史・メディア史から見た劇作家ホルヴァート—
3. 山本順子：自然からの語り掛け —美的源泉としての啼鳥—

研究エッセイ

1. 鈴木康志：フランツ・カール・シュタンツェル、その人生と物語論 —今年 100 歳になられるのを記念して—

ドイツ語教育の現場から

太田達也・鈴木友美加：Deutsche Schule のドイツ語授業において目標とされるコンピテンシー —民主主義をテーマとした論述文の読解・作文の授業見学報告

書評

土屋勝彦：多和田葉子著、関口裕昭訳『パウル・ツェランと中国の天使』

○合評会

2024 年 12 月 9 日 (土)、10 時より東海支部機関誌に掲載された論文の合評会が、愛知大学名古屋キャンパス講義棟 7 階 L701 教室で開催された。

○2023 年度日本独文学会東海支部総会、および冬季研究発表会

日時：12 月 9 日(土曜日) 13 時 30 分より

場所：愛知大学名古屋キャンパス講義棟 7 階 L706 教室

総会

- 1) 理事報告, 庶務報告, 編集委員会報告, 会計報告, 及び予算案の報告と承認。
- 2) 規約の改正

東海支部規約の改正については、2024 年夏季研究発表会の前に臨時総会を開催し、決定することとなった。

- 3) 役員選挙

役員選挙の結果、以下の通り選出された。

幹事（二年任期）：稲葉瑛志（再任）、麻生陽子（新規）、安川晴基（新規）

中川幹事の信任投票（一年任期）についても、信任が得られた。

新幹事の役割分担は、以下のとおり

支部長：糸井川修

支部選出理事：島田了

庶務：稲葉瑛志、安川晴基

会計：中川拓哉、高橋美穂

編集：山本 恵、麻生陽子

研究発表

1) Reichenbacher, Christoph: Die neue Sprache im deutschen Roman der Gegenwart.

2) 野添聡：古アイスランド語『詩のエッダ』の小辞 of について

3) 小栗友一：ヴォルフラム・フォン・エッシェンバッハ『ヴィレハルム』の魅力

講演会

西村雅樹：「世紀末ウィーン文化」の評論家ヘルマン・バル

○懇親会

研究発表会、講演会終了後、愛知大学名古屋キャンパス厚生棟 1 階キャンパスレストランにて開催。

京都支部

総会・研究発表会について

○2023 年度春季研究発表会

日時：2023 年 7 月 1 日（土）13：30～17：20

会場：京都外国語大学 4 号館 451 教室

参加者数：41 名

○2023 年度総会（※2023 年度秋季研究発表会是不開催）

日時：2023 年 10 月 15 日（日）14：00～14：50

会場：京都府立大学 稲盛記念会館 105 教室
参加者数：21 名

総会：2023 年度決算報告と 2023 年度予算案の承認、各種委員報告。
支部役員選挙：7 名の新委員が選出された

○2024 年度春季研究発表会は 6 月末～7 月初旬に龍谷大学深草キャンパスで開催予定。

全国学会開催について

○日本独文学会 2023 年秋季研究発表会

日時：2023 年 10 月 14 日（土）～10 月 15 日（日）

会場：京都府立大学

参加者数：245 名

○日本独文学会 2023 年秋季研究発表会懇親会

日時：2023 年 10 月 14 日（土）18:30～20:30

会場：イタリアンレストラン「In The Green」

会費：6000 円（学生・常勤職を持たない会員は 5000 円）

参加者数：121 名

学会誌・ブックレットについて

○学会誌『Germanistik Kyoto』について

2000 年より年 1 回刊行。2023 年発行の第 24 号掲載論文は以下の通り。

・18 世紀の陰謀論 ―反革命誌『オイデモニア』（1795-98）における「真実」言説―

須藤 秀平

・メランコリーの治癒に向けて ―精神分析史における抗うつ剤としてのフェモール―

網谷 優司

○「読み切りブックレット・ドイツの文化」について

2016 年より出版助成を開始。2022 年 5 月に第 3 巻を刊行。

その他

○会員数：140名

阪神支部

○第242回研究発表会

2023年12月9日（土），近畿大学

参加者数 31名

研究発表

- 1) 伊藤克将（大阪公立大学）：ドイツ語と生成文法
- 2) 鈴木啓峻（大阪大学）： トーマス・マン『ヨセフとその兄弟たち』—「個性化とナルシシズム」の物語における自己と他者
- 3) 西出佳詩子（大阪大学）：ドイツ語授業における能動的学修 —動画作成を取り入れた授業実践を例に

○会員数 197名 （2024年3月12日現在）

中国四国支部

中国四国支部会は2023年度の活動として、11月11日に徳島大学にて、第72回総会・研究発表会を催し、以下の5件の研究発表があった。

木田綾子：ヴィーラント『ドン・シルヴィオの冒険』における「ヒヤシンスの物語」について

松尾博史：「摘み入れの後」— シュテファン・ゲオルゲ『魂の一年』から

北川 千香子：閉塞と空虚のはざま— クリストフ・マルターラー演出《トリスタンとイゾルデ》における「待機」の表象

ミニ・セッション「ルーマニアという周辺から」の枠で、

黒田晴之：トランスニストリアとその周辺からのネットワーク — アーノルド・ダガーニを中心に

小黒康正：ヘルタ・ミュラーの文学における歴史的重層性について

『ドイツ文学論集』第 56 号は、以下の査読論文を掲載して、12 月末に発行した。

野上俊彦：永遠性への憧憬 — エルンスト・ユンガーの思想における「記念碑的なもの」

Olaf SCHIEDGES : Jurij Lotmans Theorie der Raumsemantik als methodischer Beitrag zur Analyse literarischer Texte

11 月の総会時点で、会員数は 71 名、賛助会員 5 社である。

西日本支部

○2023 年 6 月 10 日「九州ドイツ語暗唱コンテスト 2023」（福岡大学）後援

○2023 年 11 月 18 日 支部学会誌『西日本ドイツ文学』第 35 号発行。掲載論文・書評等は以下のとおり。

論文

杵渕 博樹：生き延びるためのメランコリーと共生

— ギュンター・グラス『蝸牛の日記から』の思想 —

石川充ユージン：マイスター・エックハルトにおける被造物の「無」

田平廉太郎：近代ヨーロッパにおける人間中心主義的動物観

— 娯楽としての釣りの観点から —

研究ノート

日高 雅彦：トーマス・マン『シラー試論』における光の淵源

— 『フィオレンツァ』がもたらしたもの —

書評

二藤拓人 著：^{フラグメント}『断片・断章を書く—フリードリヒ・シュレーゲルの文献学』 大澤 遼可

大澤遼可 著：『ノヴァーリスにおける統合機関としての「眼」—「自己感覚から「心情」へ』 嶋崎 順子

報告

日本独文学会西日本支部 2022 年度活動報告 竹岡 健一

○2023 年 12 月 9・10 日 福岡大学にて日本独文学会西日本支部第 75 回総会・研究発表会・Durs Grünbein 講演会を開催。参加者 58 名。

研究発表タイトルと発表者は以下のとおり。

1. ハインリヒ・マンにおけるニーチェ受容の転回点としての『ゾラ論』
長光卓
2. Wie urteilt Hannah Arendt einige Weltanschauungen Nietzsches in ihrer Schrift „Vita activa“ ?
栗山次郎
3. 観察者はどのようにふるまうべきか —— ニコラス・ボルン『二日目』の語り手と語られ方
杵渕博樹

招待講演 Durs Grünbein: „Jenseits der Literatur. Oxford Lectures“

4. 動詞結合価辞典における記述とドイツ語教育での活用
片岡宜行
5. ヴルフ・ブライの『取り憑かれた人々』について —— ナチス時代の工業小説
竹岡健一
6. 教訓なき寓意体系—ギュンター・グラス「蝸牛の日記から」再考
胡屋武志
7. E. T. A. ホフマンの音楽批評における絵画的表現 —— 『ベートーヴェン: ゲーテ〈エグモント〉のための音楽』を中心に——
池田奈央
8. 革命期ラインラントの愛国言説
——1790年代ゲレスの著作を中心に
須藤秀平

○会員数 (2023年10月1日現在) : 123名

ドイツ語教育部会報告

1. 部会長

- 1) 2023年8月14日～18日に清野智昭幹事とともにIDKおよびIDV代表者会議に参加した（詳細は「IDV 関連」参照）。
- 2) 2023年11月5日にゲーテ・インスティトゥートとの共催ワークショップ「ヨーロッパ共通参照枠・随伴版に関する専門家パネルとワークショップ: Expert*innenrunde mit Workshops zum Begleitband des Gemeinsamen europäischen Referenzrahmens für Sprachen」を開催し、部会長が司会を担当した。
- 3) ゲーテ・インスティトゥート大阪の閉鎖に関する声明（「Goethe-Institut 大阪閉館の知らせを受けて/Zu der Schließung des Goethe-Instituts Osaka」）を発表した。

2. 企画

- 1) JGG 2023 年度秋季研究発表会（京都府立大学）の会期に合わせ、2023年10月14日（土）13:00～18:00 および10月15日（日）10:00～13:00にDaF-Caféを開催した。関連団体に協力を依頼し、DaFに関心がある人たちの情報交換・交流の場を提供・運営することを目的とした初の試みであった。参加した関連団体は、次のとおり：

Goethe Institut / DAAD / DaF ゼミ / 高独研 / ドイツ語教員養成研修講座 /
Interessengemeinschaft der deutschsprachigen Lehrenden in Japan /
DaF-Forschungskolloquium in Japan

IDK 2023 のテーマであった„Mensch und Maschine beim Deutschlehren und -lernen: ein Wechselverhältnis“と関連して、「生成 AI と言語教育」をテーマにミニトークイベントを行った。フロアとの質疑応答・議論も活発に行われた。

- 2) 2024年2月13日・2月19日に教育部会主催のワークショップ「新しい授業スタイルの可能性を探る—オリジナル教材作成とタスク/プロジェクトの導入方法を学ぶ—」が開催された。講師は濱野英巳氏、ホルガー・シュツテレ氏、武井佑介氏が務めた。2月13日は5名、2月19日は2名が参加した。

3. 機関誌

『ドイツ語教育』第28号を2024年3月20日に発行した（編集長：田中雅敏幹事）。第28号では特集「ドイツ語授業における文法規則の明示的指導の役割」が生まれ、5本の論考が掲載された。また、編集委員会が定めるテーマについての意見を募るフォーラムのテーマは「到達度の評価」をとし、3名からの投稿が

あった。論文が6本、研究ノートが1本、実践報告が2本、新刊紹介が2本掲載された。

4. 高等学校・PASCH

- 1) 全国の高等学校等における英語以外の外国語実施校（高専，中等教育学校含む）リストが完成した（JACTFL ワーキンググループ，能登慶和幹事，池谷尚美幹事が参画）。リストは，JACTFL のホームページで公開されている（<https://www.jactfl.or.jp/>）。
- 2) 2023年5月28日，東京横浜ドイツ学園にて，東京横浜ドイツ学園と提携をしているボルシアドルトムントのトレーナーから指導を受け，PASCH校および横浜ドイツ学園の生徒間の交流を図った。
- 3) 2023年6月25日～7月15日に Heilbronn で行われた「Jugendkurs + Beruf」に PASCH校から1名（早稲田大学高等学院）が参加した。
- 4) 2023年7月4日～8月1日にかけて，2名の高校生（伊奈学園，早稲田大学高等学院）が PAD に参加した。
- 5) 2023年7月24日～28日までの5日間，獨協大学にて，第27回「高校生のためのドイツ語入門講座」が実施された。全国から46名の高校生が参加し，ドイツ語の授業や大学のミニ講義などを通じて交流を深めた（講師として能登慶和幹事も参加）。
- 6) 2023年7月30日～8月19日にかけて，Benediktbeuern および Pforzheim-Hohenwart で行われた Jugendkurs に PASCH校から8名の生徒が参加した。
- 7) 2023年10月1日に，獨協大学にて「第25回全国高校生ドイツ語スピーチコンテスト」が開催され，池谷尚美幹事（高独研副会長）が審査員を務めた。
- 8) 2023年10月～11月にドイツ企業訪問が行われ，PASCH校生がドイツ大使館，SAP，Merck を訪問した。
- 9) 日本の PASCH校に新たに慶應義塾女子高校が加わり全部で6校となった（獨協高校，早稲田大学高等学院，北園高校，伊奈学園総合高校，横浜国際高校，慶應義塾女子高校）。

5. 高等専門学校

2023年8月12日～8月20日にベルリンで行われた独日青少年協会および日独ユースネットワーク主催のプログラム「Hallo Deutschland」に，学生2名が参加した。

6. 大学入試問題検討委員会

- 1) 2023 年日本独文学会春季研究発表会（明治大学駿河台キャンパス）1 日目に、令和5年度大学入試問題を展示した。23名の来場者があった。
- 2) 独立行政法人大学入試センターからの依頼に基づき、「令和6年度大学入学共通テスト（ドイツ語）の試験問題に関する意見・評価」（本試験および追試験）を草本晶部会長の名義で作成し、2024年2月20日付けで大学入試センターに提出した。評価書の作成に関しては、草本晶部会長の他、伊藤直子幹事、田中雅敏幹事、能登慶和幹事、池谷尚美幹事、木戸紗織委員、佐藤友紀子委員、野村幸宏委員が作成とその補佐を担当した。

7. ドイツ語教員養成・研修講座

- 1) 日本独文学会および東京ドイツ文化センターとの共催で開催されている「ドイツ語教員養成・研修講座」2021～2023 年期講座は、2023年9月23日（土）にゲーテ・インスティトゥートにおいて最終ワークショップおよび修了式が行われた（参加証に草本部会長が署名）。
- 2) 2023～2025 期新講座が、2023年10月7日の初回ワークショップをもってスタートした。なお、新講座の実行委員は以下の各部会員である（敬称略）：
池谷尚美，太田達也，梶浦直子，草本晶，境一三，坂本真一，野村幸宏，吉村創

8. IDV

2023年8月13日（日）～18日（金）の会期で、スイスの Winterthur にある チューリヒ応用科学大学（Zürcher Hochschule für Angewandte Wissenschaften; ZHAW）を会場として開催された Internationale Delegiertenkonferenz (IDK) および Internationale Deutschlehrerinnen- und -lehrerverband (IDV) 代表者会議に草本晶部会長，清野智昭幹事が出席した（8/13 到着日，8/18 出発日）。

IDK は，総合テーマ „Mensch und Maschine beim Deutschlernen und -lehren: ein Wechselverhältnis“ の下，2つの基調講演，6つの Workshop（そのうち参加者は最大3つに参加）からなり，人工知能，特に ChatGPT に代表される対話型生成 AI や，DeepL などの高性能の翻訳ソフトがドイツ語学習や教授にどのような功罪を持つかについて様々な可能性が報告されるとともに，活発な議論が行われた。

IDV 代表者会議では，議決事項を処理するとともに，各国の Verband が連帯して sprachpolitisches Handeln を行い，外国語教育，とくに，ドイツ語教育を守る活動をすることの重要性が説かれた。なお，IDV-Fördermitglieder について，

会議の前半で、会長より、これらの機関が **Solidaritatsfonds** を支払ってくれているおかげでウクライナの会費を賄うことができ、非常に感謝していると謝意の表明があり、会場の拍手で迎えられた。

(文責：田中雅敏)

ドイツ語学文学振興会より

第 64 回ドイツ語学文学振興会賞選考について

第 64 回ドイツ語学文学振興会賞は、Info-Blatt 編集時において審査者会議で審議中です。審査結果が判明し次第、ドイツ語学文学振興会ウェブサイト (<http://www.dokken.or.jp/foundation/>) でお知らせする予定です。なお、授賞式は春季研究発表会初日 (6 月 8 日) 11 時 40 分 (予定)、学会会場にて開催いたします。多くの学会員の皆さんが参列し、受章を祝っていただきたく存じます。

なお、本賞の趣旨は日本国内における若手のドイツ語学文学研究者による優れた業績の発掘にあります。しかし近年『ドイツ文学』以外の研究誌に掲載された論文の応募が少なくなっており、授賞にふさわしい研究が埋もれていることが懸念されます。

そこで振興会としましては、日本独文学会会員からの積極的なご推薦をお願いしたく存じます。ご指導に当たられていたり、お知り合いでいらっしゃる若手研究者の優れた論文をお目にされましたら、是非ご推挙ください。

(文責：武井香織)

大学院 Germanistik 関係博士論文題目

2023年9月1日から2024年3月20日までに本学会HPの「博士学位取得情報登録フォーム」(<https://www.jgg.jp/mailform/dsrtn/>)に届け出があった情報を、執筆者ご本人の申告に基づき掲載します。

なお、申告済みの情報は下記URLでご覧いただけます(検索欄への入力無しに「送信する」をクリックすると、全件表示されます)。

https://www.jgg.jp/mailform/prom/prom_src.php

※大学名および氏名は50音順です。

※掲載対象は本学会員の情報のみです。

※カッコ内は取得年を表します。

2023年9月1日から2024年3月20日までに新規登録された博士論文題目はありませんでした。

『日本独文学会名簿（2023年発行）』正誤表

お詫びして下記の通りに訂正いたします。

頁	掲載箇所 (敬称略)	誤 (falsch)	正 (richtig)
19	嶋崎順子	7kaesleibgeber@gmaio.com	7kaesleibgeber@gmail.com
21	鈴木 満	szk88mitsuru@zoho.eu	szk88mitsuru@zoho.eu
31	野口芳子	梅花女子大学	武庫川女子大学
34	福田 覚	fukuta@lang.osaka-u.ac.jp	fukuta.hmt@osaka-u.ac.jp
34	福永堅吾	東京都立産業技術 専門高等学校	東京都立産業技術 高等専門学校
39	村上公子	早稲田大学教授	早稲田大学名誉教授
47	Spang. Christian W.	chrspang@hotmail.comM	chrspang@hotmail.com
49	(株)三省堂	http s	https
付録 3	(東京都) 産業技術専 門高等学校		(東京都) 産業技術高等 専門学校
付録 9	公益財団法人ドイツ語 学文学振興会	113-0033	112-0012
付録 10	(株)三省堂	101-8371	102-8371

あとがき

「ニュースレター」2024年秋号（Info-Blatt 第9号）をお届けします。各種のご報告ならびにご案内をお寄せいただいた皆様、ありがとうございました。

学会情報の多くがHPで公開されておりますが、このニュースレターにしかない情報もありますので、ご一読、そしてご活用いただけましたら幸いです。今後どうぞよろしくお祈りいたします。

庶務担当理事 小林和貴子

編集

一般社団法人 日本独文学会庶務委員会

小黒 康正（委員長）

太田 達也（編集担当） 小野間 亮子（編集担当） 川島 建太郎（編集担当）

小林 和貴子（編集担当） 櫻井 麻美（編集担当） 清野 智昭（編集担当）

編集・発行

一般社団法人 日本独文学会

170-0005 東京都豊島区南大塚

3-34-6 南大塚エースビル603

電話03-5950-1147

振替00160-9-135018

E-Mail（メールフォーム）：

<http://www.jgg.jp/mailform/buero/>

ニュースレター2024年春号

JGG-Info-Blatt / Frühling 2024

2024年4月10日発行